

イエスは言われた。「私がまだあなたがたと一緒にいたときに、語って聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、私についてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてあることは、必ずすべて実現する。」そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まって、すべての民族に宣べ伝えられる。』あなたがたは、これらのことの証人である。私は、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力を身に着けるまでは、都にとどまっていなさい。」（ルカ24：44～49）

エマオで復活の主イエスに出会った二人の弟子は、エルサレムにいる仲間たちの所に戻り、主イエスは復活し、生きておられると喜びの報告をした。そこへ、復活した主イエスが弟子たちの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。弟子たちは恐れおののき、霊を見ているのだと思った。すると、主イエスは、「なぜ、取り乱しているのか。どうして、心に疑いを抱くのか。私の手と足を見なさい。まさしく私だ。触ってよく見なさい。霊には肉も骨もないが、あなたがたの見ておるとおり、私にはあるのだ」と言われ、手と足をお見せになった。弟子たちは喜びのあまりまだ信じられず、不思議に思った。そこで更に、主イエスは、「ここに何か食べ物はあるか」と言われたので、弟子たちが焼いた魚を一切れ差し出すと、弟子たちの前で、それを食べられた。

著者ルカは、復活した主イエスは、十字架で釘付けにされた手と足を見せられ、体を持って復活されたことを証しされた。主イエスは生きておられると喜んだけれども信じられない弟子たちに、食べ物を所望し、出された焼き魚を食べたと、霊ではなく、肉を持って復活されたと書いている。ルカは、復活のリアリティを描き出している。

復活に関し、最初に証言しているのは、パウロである。彼は、Iコリント15章で、キリストの復活について、「しかし今や、キリストは死者の中から復活し、眠りに就いた人たちの初穂となられました（Iコリント15：20）」と確信的に書いている。その復活の体について、「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものに復活し、弱いもので蒔かれ、力あるものに復活し、自然の体で蒔かれ、霊の体で復活します。自然の体があるのですから、霊の体もあるわけです。（Iコリント15：42～44）」と、復活した主イエスの体は「霊の体」として書いている。パウロの復活証言の方が受け入れ易い。

主イエスは、弟子たち皆に、メシアである私について、モーセの律法と預言者の書と詩編に書いてあることは、必ずすべて実現すると言われた。そして、聖書の言葉から、「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まって、すべての民族に宣べ伝えられる」と言われた。十字架と復活は罪の赦しの福音であり、この福音がエルサレムから始まり、全世界に宣べ伝えられる。復活した私を見たあなたがたは、これらのことの証人であると、弟子たちに福音宣教の使命を託された。そして最後に、「私は、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力を身に着けるまでは、都にとどまっていなさい」と、主イエスは神が約束された聖霊をあなたがたに送る、聖霊の力を身に着けるまで、エルサレムに留まり、聖霊降臨の日を待ちなさいと命じられた。